



昭和大学薬学部の教育と研究についての情報です。

発行責任者 山元俊憲  
昭和大学薬学部  
東京都品川区旗の台1-5-8  
電話：03-3784-8000 (代)

THE FOUNDING SPIRIT 建学の精神

**至誠一貫**  
昭和大学は、薬学部のほか、医学部、歯学部、保健医療学部からなる日本で唯一の本格的医系総合大学です。本学の建学の精神「至誠一貫」は、真心を持って患者さんに尽くすことを意味します。薬学部では、患者さん中心の医療を実践するヒューマニズムあふれる薬学専門家の養成を目指します。

表題の「薬と学ぶ」は、薬についての知識を学習するだけでなく、その知識を持ちながら、薬についてのプロフェッショナルという専門性を生かしてチーム医療の中で患者さんに対応する能力を学ぶという意味を表現したものです。

RESEARCH 研究

研究室探訪

病院薬剤学講座

[http://www.showa-u.ac.jp/sch/pharm/major/hosp\\_pharm/index.html](http://www.showa-u.ac.jp/sch/pharm/major/hosp_pharm/index.html)

病院薬剤学講座は、ちょっと変わった研究室。全国を探しても当研究室のようところは昭和大学以外には無いとか・・・。  
何が変わっているのでしょうか？



村山 純一郎 教授

実は、病院薬剤学の教育職員は全員、大学病院で活躍している現役の臨床薬剤師なのです。医療の最前線で日夜患者さんと向き合いながら、学生の教育指導を担う。言いかえれば、患者さんを中心とした高度チーム医療を実践し、その成果を学生の皆さんに伝えること。これが私たちの研究室のミッションなのです。

また私たちは、最新かつ最善の薬物治療について、様々な角度から患者さんをサポートする研究をしています。物質である「医薬品」が、患者さんにとってより有効で安全な「くすり」となり、福音をもたらす。そんな研究です。例えば、くすりの使い方を工夫して有効性を高める研究や、高額な医薬品を使う患者さんたちの経済的な負担を減らすための研究、抗がん剤の副作用で悩む患者さんたちを遺伝子診断して副作用を軽減する研究などに取り組んでいます。

医療に価値ある変化をもたらして患者さんの悩みを解決すること、そして未来の優秀な臨床薬剤師を育成すること。この二つの大きなテーマに日々取り組んでいるのが病院薬剤学講座です。



昭和大学の入試関連情報は、PCからアクセス <http://www.showa-u.ac.jp/admissions/index.html>

または、携帯電話からアクセス <http://campus.ktai.at/showa/>

情報



なんでだろう？

Q. 水なしで錠剤が飲めるってなんでだろう？

- 口腔内崩壊錠ってナニ？ -

この問題の解説は、[http://www.showa-u.ac.jp/sch/pharm/kusuri\\_manabu.html](http://www.showa-u.ac.jp/sch/pharm/kusuri_manabu.html)



ご意見、ご質問：昭和大学薬学部 広報委員会  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8  
昭和大学薬学部毒物学教室内 担当：沼澤 聡  
numazawa@pharm.showa-u.ac.jp

昭和大学附属病院では、薬剤師レジデント制度を導入しています。薬剤師レジデント制度は、1年間で5病棟、臨床薬剤師の指導のもと、みっちり臨床を学ぶ“臨床薬剤師”養成プログラムです。薬剤師レジデントは、臨床業務を通して、臨床薬剤師に必要な知識・技能・態度を学びます。



CHECK 薬剤師レジデントの1日を覗いてみよう！

**午前**

異物混入には注意しなげ！

調剤室でお薬をつくる

**午後**

病棟では、指導薬剤師のもとで医師や看護師と共に患者さんの治療を支えます！

**夜**

病棟で、患者さんの治療について医師や看護師、上級薬剤師と検討会！

医師と協議&処方提案

いいね！処方してみよう。

この薬、使ってみませんか？

新しいお薬が始まります。

患者さんに薬の説明

この患者さんは・・・

医師や看護師と患者さんの治療について検討会

病棟では、指導薬剤師のもとで医師や看護師と共に患者さんの治療を支えます！

レジデント修了生の声

昭和大学薬学部病院薬剤学講座 助教 鈴木康介

私は、昨年度レジデントの研修を終え、現在、昭和大学病院の病棟薬剤師として勤務しています。レジデントの病棟研修は学部実習と異なり、長期間、複数の病棟にて行います。医師・看護師をはじめとする多くの医療従事者と共に、目の前の患者さんの治療に取り組むことで、《最良の医療》とはなにかを考える日々でした。また、医学部・歯学部の同級生も研修医として病棟に研修へ来ているので、医学・歯学の基礎知識を教えてもらったり、逆に薬剤の情報を提供をしたり、共に医療人として成長することができた一年間でした。

昭和大学薬学部病院薬剤学講座 助教 小川泰葉

私は、幼い頃から医療に貢献する両親の姿を見て育ち、私も薬剤師としてベッドサイドで患者さんに接したいという思いが強くありました。昭和大学病院での学生実習、レジデント研修を通し、多職種と連携を図りながら医療に貢献することの重要性や、患者さんの病態も把握したうえでの薬学的管理を行うといった広い視野を養うことができました。現在は、小児医療センターとNICU病棟を担当しています。成人とは異なる薬物動態を考えるのは難しいですが、チーム医療の中で小児への薬物治療に少しでも貢献できればと思っています。

昭和大学薬学部病院薬剤学講座 助教 白田昌弘

レジデントの1年間で、医師や看護師と患者さんにとっての最良の治療について協議し、レジデントの自分が提案した薬物治療が採用された時には、薬剤師として大きな責任とやりがいを感じました。その結果、患者さんの笑顔が見られたことは今でも自分のモチベーションになっています。レジデントの一年間は、患者さんから知識だけでなく、医療者としての心構えを学ぶことができました。現在は、循環器とCCU (Coronary Care Unit) の2病棟を担当しています。レジデントで得た知識・技能を活かして、患者さんに寄り添った薬剤師になれるよう頑張りたいと思います。